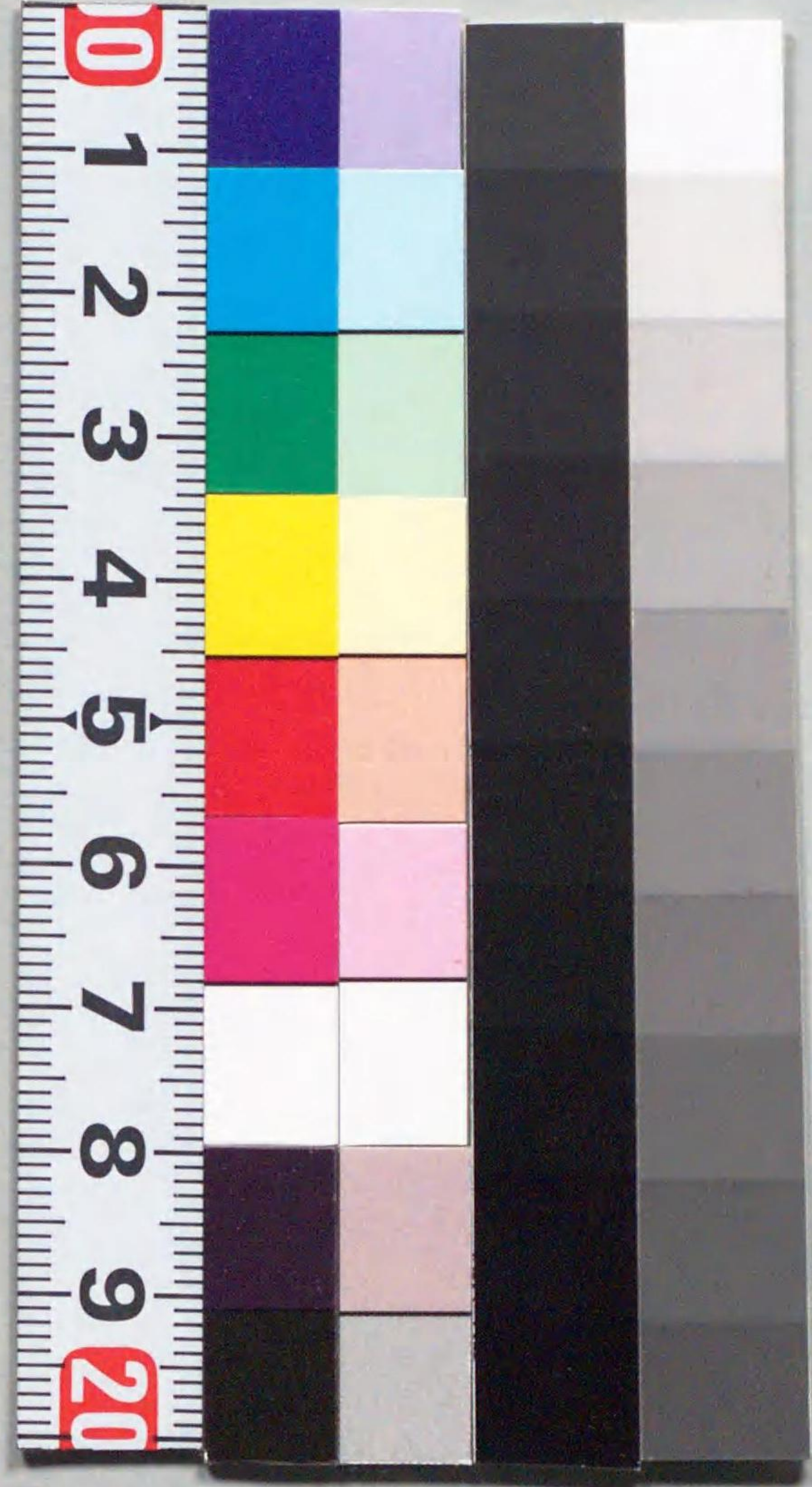


Y994

J7734

戦時下の鐵道

鐵道省



戦時下の鐵道

Y994
J7734

はしがき

この小冊子は戦時下に於ける鐵道の重要性を了解して頂き、國策に協力方を要望する
ために編纂したものであります。

なほ國策輸送の一助として列車の内外に於ける旅行禮法の一斑をも併せて記しまし
たが、文中言辭の禮に於ける不十分な點がありましたらば、幾重にも御諒恕を願ひたい
と思ひます。たゞ一億一心東亞共榮圈建設の大理想に向つて邁進する現今の戦時國家
にありまして、國民は相互に不自由は忍ばなければならぬのでありますから、各位
は十分に鐵道當局の眞意を了知せられて、國策に協力せられんことを切に希望する次
第であります。

昭和十七年三月

鐵 道 省



I 種
W



1200800994878



一行勵列一



ごときを眺めるときはお靴をぬいで



ドアを開け放して出て行かぬこと

車内禮法

鐵道省

一、席を譲り合ひませう

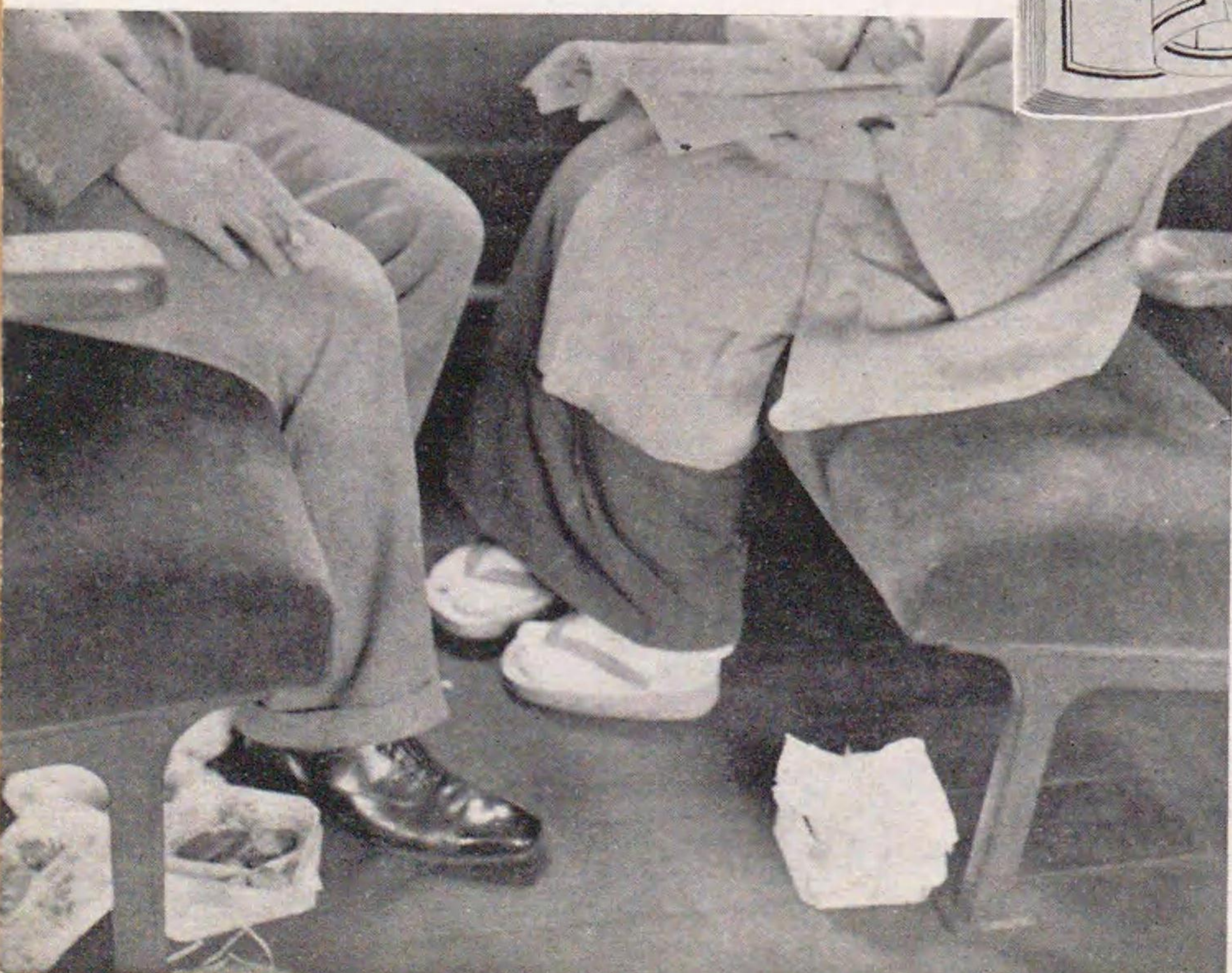
一、座席や通路に荷物を置かぬやう

一、車内を綺麗にしませう

防誅



大きな荷物は他の客の迷惑

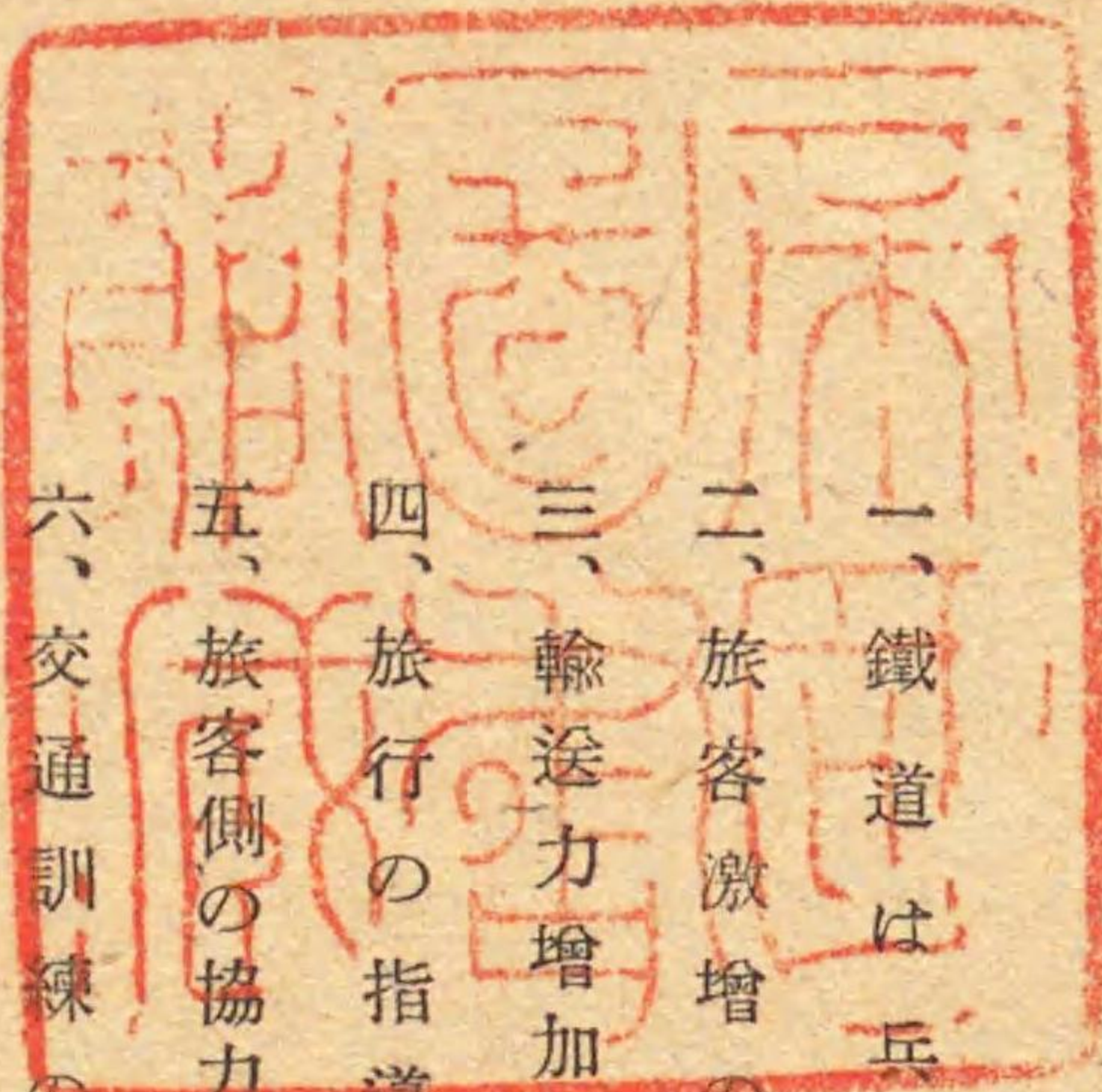


辨當殼の始末に氣をつける

戦時下の鐵道

目次

一、鐵道は兵器だ	一
二、旅客激増の原因	四
三、輸送力増加に伴はず	六
四、旅行の指導調節	九
五、旅客側の協力にまつ	一三
六、交通訓練の意味	一七
七、大東亞指導國民の品格	二〇



座席で狸寝入は止めませう

くしまゝつは煙喫ので内車客



八、旅行禮法……………

一列乗り 出札口 列車の乗り降り 荷物は少く 着席
子供のお行儀に心して 車内を綺麗に 喫煙される方々は
窓や扉の開閉には 車内では防諜に注意して和やかに
禮儀を重んじ身だしなみをつましく 買物は窓口から
窓から空瓶や辨當證などを棄てぬやう 洗面所などでは
食堂車では 寢臺車では ホテル、旅館では 風景愛護

一、鐵道は兵器だ

前の歐洲大戰に於てドイツが二週間の間に、軍事輸送三百十二萬を行つたことは、
普佛戰爭當時の兵員五萬四千八百の輸送に比して六十倍に當るので、かくも大量輸送
を短期間に果したドイツ鐵道の活躍は世界を驚かすに足りたのであります。これを
今回の歐洲戰爭に際して、ドイツがポーランド國境に五箇軍團を集結して一舉に敵を
撃碎し、續いてベルギー、オランダ、ルクセンブルグの西部戦線に殺到し、忽にして
パリを陥れ、更に東部戦線にソ聯軍をモスクワまで壓迫した電撃作戰と比較したなら
ば同日の談ではないのであります。

我が國の支那事變につゞく大東亞戰爭にどれだけの軍事輸送が行はれたかはいふべ
き限りではありませんが、我が國土の細長いことは、青森から下關の距離がベルリン
からモスクワに至るとほゞ同じく且つドイツのやうに自動車及び自動車道の完備のな

い點を考へて見ても、日本の主要幹線の上を如何に大量の軍事輸送が行はれたかを想像出來ると思ひます。そしてそれが防諜的理由からばかりではなく、戦時に於ける一般運送の重要性にも鑑み、定時列車の運行に大なる變化を及ぼさず、これを遂行してゆくといふことは一と通りの苦心ではないことはいふ迄もないのであります。

現代の戦争は無数の兵器と裝備とを有する數百萬の大軍を動かすことによつて行はれ、機動の敏速が勝敗の決をなすのでありますから、一面からいへば交通機關が戦争をしてゐるといつてもよいのであつて、この意味で戦時下の鐵道は兵器なりといふことが出来るのであります。それは直接に軍隊輸送をするだけではありません。戦争が驚くべき大量の消費を一時にすることは大東亞戦争によつてよくわかるのであります。これが補給生産を常に繼續してゆき、國防強化のための生産力の擴充、食糧の輸送等が、交通機關の擴充整備を最大要件とするのに加へて更に船腹の不足があり、ガソリンの統制があるので、鐵道の任務は一層重大になつたのであります。

かくの如き事情は、我が國有鐵道の性格を全然一變させてしまつたのであります。即ち鐵道の利用による運送營業をすることから、國家の必要とする國策輸送の機關として働くことに變つたのであります。これを旅客輸送に就て見ますれば、如何にして旅客を誘致して鐵道による營業収益をあげるべきかに努力する代りに、如何にして國策輸送の責任を完全に果すべく一般旅客を指導調節するかに苦心しなければならなくなつたのであります。これを法規的に申しますれば、鐵道營業法によつて、原則としては旅客貨物の運送を拒絶出來なかつた鐵道が、國家總動員法に基く陸運統制令によつて鐵道大臣は國の營む運送事業に關し一定の人若くは物の運送を拒絶し、又は運送の順序若くは方法その他の事項を指定して運送を引受けることを得るやうになつたのであります。

それならば何故に國策輸送をするためには、交通機關の使命に反して運送拒絶、旅行制限といふことまで考へなければならぬかといへば、これは全く我が國運の發展

に伴ふ旅客貨物の激増振りが驚くべき數字に上つてゐるからであります。貨物の方は別にして、こゝでは旅客の激増に就てのみいひませう。

二、旅客激増の原因

軍事關係の各種輸送の増加は申すに及ばず日本の大陸發展に伴つて、近年大陸との往來が非常に多くなつてゐることは、關釜連絡船の乗客數が日支事變以來、毎年その前の年に比べて一割乃至三割の増加を示して、昭和十五年には十一年の二倍半にも及んでゐる事實によつて明らかであります。また統制經濟の進行強化によつて、地方から中央に向つて、打合せや陳情といふやうなことで往來する人々が、東京を中心とする主要幹線の混雜の原因をなしてゐることも疑ひありません。

最も大きいのは、生産擴充計畫の進捗に伴つて工場通勤者の増加であつて、昭和十三年の如きは前年に比べて五割二分も工場通勤者が殖えてゐます。工場通勤者の定期

乗車券によつて見ますと昭和十五年の數字は滿洲事變勃發當時の昭和七年の八倍半を示してゐますが、恐らく昭和十七年度には十倍になることゝ思はれます。それでありますから、これら軍需工場の附近に於てはその通勤時間には定員の二倍、甚しき區間では三倍に近い乗客を運ばなければ、この銃後戦士をして生産擴充の職業に勵まさせることを得ない事態にあるのであります。それは工場附近の通勤時間だけの問題ではありません。これら工場通勤關係者の郷土との往來も多くなりますし、父母縁戚の人々が農村の景氣が比較的よい事に伴ひ都會に出て來る機會を多くすることにもなつて、一般的に旅客増加の趨勢傾向を一層甚しくするのであります。

これらの外に、國民精神の昂揚、集團訓練の強化のために、各種の訓練、行事、總會等に對する集團的の輸送も目立つて増加してゐるのであります。以上各種の原因を加へて、事變前の昭和十一年の旅客數を一〇〇とすれば、昭和十五年には一八八といふ數字を示してゐるのであります。旅客の方は僅か五年の間に二倍近い増加をして

ゐるのですが、然るにこれに對して客車の方は一〇〇に對して一一六、即ち一割六分しか増してゐないのであります。

我が國の鐵道は極度に能率をあげてゐるので、もともと餘裕がないことは、ドイツやイギリスの所有客車數を標準とすると、同數の旅客を運ぶのに我が國鐵はその五分の二前後の客車しかもつてゐないことでもわかります。いひ換へれば同數の旅客を運ぶのに、イギリスでは我が國の五倍半、ドイツでは四倍半の車をもつてゐるのであります。そこへもつて來て、旅客の増加が二倍なのに、客車の數は一割六分しか増してゐないのでありますからその結果は明らかであります。

三、輸送力増加伴はず

鐵道の輸送力を増すためには、客車機關車等、車輛の數を殖すばかりでなく、停車場及び操車場の擴張、線路の増設、荷役設備の強化など、あらゆる施設を改良し擴張

してゆかなければならないのに、今日では資材や勞力の關係から思ふやうにならないのであります。新聞に彈丸列車として紹介された廣軌の新幹線の計畫も着々進行してはゐますが、それは根本的な恒久策としても、今の急場には間に合ひません。應急策としてはどうしても現有設備の高度能率化を圖る外はないので、そのためには經營方針の大轉換をして、サービス精神と牴觸しない程度に於て能率を強化するとか、設備の不足を人手で補ふとか、いろいろの方法を講じなければならぬのであります。

設備の不足を人手で補ふためには、豫備員を置いて訓練したり、養成と教習の機關を擴充したりして、従事員の數を支那事變前に較べて三割程増してゐるのではあります。が、何といつても新規採用で短期間に仕上げた者でありますから、一方に尠からぬ數の熟練者を大陸に送つてゐる現狀に於ては、未熟練者の割合が増す結果になり、三割だけ人手が増したことにはならぬ憾があるのであります。

現有設備を出来るだけ能率よく使ふためには、人手がかゝり、資材が餘分にいつて

不経済でも仕方がないから、設備の検査や修繕を短時間に仕上げ、「遊び」を少くするとか、石炭、電力、ガソリンの消費節約に努めながらも、豫備車を極度に切りつめたり、運用の方法を改善したりして、列車の回数を出来るだけ増加して、「車の廻り」を早くするとか、平常ならば隠居させる設備でも入念に手入れをして第一線に使ふとか、機関車も精一杯に車を引張り、客車や貨車は、往きも復りも無駄なく動くやうにするとか、汽車は年中休みなしなのに調子を合せて荷役を奨励して、車が停滞しないやうにするとかしてゐるわけでありませぬ。

そのために事變以來、輸送設備の増強は小さかつたのにも拘らず、輸送量は年々二割も増進をつけて來てゐるのであります。我が國の鑛山業、機械工業、化學工業等の平均生産指數が年々一割三分強の増進歩合を示してゐるのに比して誇るべき成績を擧げてゐるわけでありませぬが、それだけ一方に於ては旅客の待遇を犠牲にしてゐることを考へなければなりません。

昭和十六年三月の統計を見ますと、三等車の利用効率、東海道本線の全急行列車で一〇〇分の一〇二、山陽本線で一〇五、中央本線が一〇二、東北本線が同じく一〇二、常磐線の如きは一一〇といふ數字を示してゐます。これはどの急行列車も平均して百人に一人乃至十人は座席がなくて、相當長い距離を立つて旅行しなければならぬことを示してゐます。事實は或列車は定員未滿のものもありますから、最高の日、或は最高の列車は、定員の二倍以上も乗つてゐることもあるのであり、また乗れないで次の列車を待つ人もあるわけでありませぬ。

四、旅行の指導調節

鐵道としては出来るだけの事はしてゐるのですが、それでも激増する旅客を捌いてゆくことが出来ないで、この上は旅客各位の協力によつて混雜緩和をはかるほかになくなつたので、昭和十六年七月には、次のやうなことを一般に掲示して、國策

輸送が圓滑にゆくやうに願つた次第であります。

一、海や山や温泉などへの避暑や遊覽を目的とする旅行には乗車券の發賣制限または停止をすることがあります。

一、國策輸送の運輸上どうしても必要な場合には臨時に乗車券の發賣を停止したり制限をします。

一、急行券の發賣驛と發賣枚數とを制限します。

一、入場券は情況に應じて隨時發賣を止めます。

一、三等の寢臺車と、食堂車の大半は連結を止めます。

一、團體、學生、各種會合その他すべての運賃割引を止めます。

海や山や温泉への旅行が悪いものではありません。國民厚生立場から考へても、日常ごみごみした都會に住んでをり、工場に働いてゐる人々が、この方面への旅行は奨励すべきなのでありますが、これがために是非とも行かなければならない仕事の上の旅

行が出来ないで、結局は大きくいへば國策遂行の上に支障を來たすやうなことがあつてはなりませんから、日曜や休日でなくとも旅行の出來る人は混雜するこれらの日を避けるとか、ハイキングや魚釣や遊山に類する旅行をしようとする人々は、かうしたことを考へて、その時期と場所と列車を選ぶといふやうな心掛けをもつて頂きたいのであります。

また急行列車のみを利用しないで、普通列車を利用し旅行の目的を目的地のみに限定せず、その道程の風物を尊重する風を助長したいと思ひます。

なほ混雜區間を徒歩による旅行なども考へられます。それからガソリン消費規正に基くバス廢止も旅行中止の一因となつてゐるやうであります。このバス區間の徒歩を奨励することも體位向上の上からよいことと思ひます。

入場券にしましても、見送り出迎へも、或點からは我が國の美風といへないこともないのであります。近來のやうに無暗にプラットホームに見送り人が押しかける

と、假りに一人の旅行者に五人の見送人があるとするれば、一列車には六百人以上の人が乗りますから三千人以上の人が、プラットホームに溢れる計算になります。結局は列車に乗る人も乗れないことがあつたり、見送り人も見送る人に會へず空しく歸るといふことが多いのでありますので、國策輸送の必要上、主要驛では隨時發賣を止めることにしたのであります。

また寢臺車も食堂車も旅客にとつて便利な設備ではありませんけれども、それを利用する人の數は限られてゐます。夜行列車の食堂は利用の時間は比較的少ないのですから、食堂にゆく代りに驛辨を買つて我慢して頂けば、食堂車の代りに百人の客が乗れるわけでありまして、三等寢臺であると五十四人しか乗られませんが、普通の客車に直せば八十八人の旅客が乗つてゆけるのであります。今日の如く混雑して乗れないで困る旅客を一列車で五十人でも百人でも多く運ぶことを考へ、サービスよりは能率をあげてそれだけ國策輸送の務めを果すことを期するのであります。

五、旅客側の協力にまつ

しかしながらからうしたからといつて、國策に沿ふ旅客は全部乗れて、不急不要の旅行をするお客だけが乗れなくなるわけには参りません。何せよ一日に五百萬から六百萬ある旅客の旅行目的を調べて乗車券を賣るわけにはゆかないのでありますから、旅行調節といつても、鐵道大臣は必要の場合は旅客の輸送を拒絶することが出来るといつても、結局は旅客の自制と自肅にまつ外はないのであつて、かういふ混み合ふ時期には不急不要の旅行は止めるとか、盆暮正月、日曜祭日は避けるとかいふ風にして、混雑を幾分でも緩和して頂きたいのであります。

旅客の自制と自肅は、こればかりではなく、乗り降りは勿論、切符を買ふ時から、車内に乗つてしまつてからまでお願ひしたのであります。この旅客の協力がなくては國鐵従業員の努力だけではこの重大時機に國策輸送を完全に遂行してゆくことは

出来難いのであります。

たとへば一列勵行といふやうなことは、つまらぬことのやうに思ふ人もありませうが、これのためにどれだけ輸送を圓滑にするかわかりません。一列勵行は數年前から下關でやりはじめたので、(或は名古屋の方が先であるとも云ひますが)とにかくそれが全國を風靡して、今では朝鮮から滿洲、北支へまでこの習慣は行はれてゐます。汽車ばかりではなく市街電車へ乗るにもバスを待つにも一列勵行が行はれてゐます。町の買物の行列は外の意味から嘆かほしいことではありますが、神宮外苑競技場で水を飲むのに少國民が一列勵行で規律正しく待つてゐたなどはほゞゑまましい話題であります。馴れぬ内こそ面倒のやうでも馴れて見ればお互に都合もよいし氣持もいゝのであります。町の四ツ辻のゴーストップでも、初めの内は中々うまくゆかなかつたのであります。今ではどこへいつても整然と行はれてゐるではありませんか。

「乗り降りはお早く」とか、「降りる方がすんでからお乗り下さい」とかいふことを、

一々指圖されるやうでは小うるさく感ずるでせうが、かういふ習慣がついてしまへば、規律整然として、押し合つたりしないで氣持よく乗り降りが出来ますし、これによる時間の節約は、國策輸送を圓滑敏捷にして、能率をあげることが思ひの外であります。

また出札口で釣錢をとらぬやうに切符を買へば、一人あて五秒で済むのを拾圓札で釣錢を出すと二分、それが百圓札であると三分といふやうな時間がかかることになり、それだけ手間をとるばかりでなく、後にならんで待つてゐる他人は迷惑し、中にはそのために乗り遅れる場合もありますから、精算拂ひの願ひをする理由もおわかりのことと思ひます。

なにしろ東京驛と有樂町驛の降車客だけでも、一日十萬人を超え、通勤者の最も多い朝の八時から九時にかけては、兩驛とも三千人から三千四百人が一時に降りるのでありますから、東京驛に新しく中央口を開くとか、大會社の出勤時間を繰り下げて貰

ふとかして、多少なりとも混雑緩和につとめてはありますが、一般乗客の協力規律ある行動によらなくては到底その目的は達せられないのであります。

学校生徒の登校通學は、朝夕の交通混雑を大ならしむる大きな原因なので多少は登校時間の調節もしてありますが、都市防空その他の理由からも、根本的に何とかしなければならぬのであります。それには學校を都市中心部から郊外へ分散させるとか、通學區域を定めて整理するとかいふ必要があるのであります。しかしながら現狀に於ては、近距離は徒歩通學を奨励して乗車を制限すると共に、乗車しても傷痍軍人や老人に座席を譲るといふばかりでなく、ドイツなどでは青少年が乗り物の内で立つてゐることがバランスの感覺を養ふので、航空等の訓練になるといはれ、學生生徒のみならず青少年は立つてゐることを原則とするといふのを我が國の青少年も日頃の心得としなければなりません。

六、交通訓練の意味

近頃では各種の集團訓練が行はれてありますが、毎日の交通訓練の如きは、最もよき規律と自制自肅の訓練であります。國技館では毎日の打上げ退場時に避難訓練をして効果をあげたのでありますが、大正十二年の關東大震災火災に於ける經驗を顧みましても、防空その他の事情により民衆の大量移動の訓練といふことは、平素から心掛けておかなければなりません。それには毎日行はれてゐる交通訓練こそ戦時下國民の最もよき訓練といはなければなりません。

襖みそぎの行ぎやうも結構であります。その一週間か五日間だけ襖をすれば平常は何をしてゐてもよいわけではありません。社會人にとつて交通訓練は毎日の「行」であります。毎日通勤通學の往復にその訓練の場所が與へられ機會が與へられてゐるのであります。「行」といふのが大袈裟であるならば、「躡しりぞけ」といつてもよければ、「嗜たしなみ」といつてもよいであります。

訓練はよそゆきごとではありません。平常が大事なのであります。近頃訓練、行事、總會等の集團的輸送が目立つて増加してゐますが、行事のときはあれだけ規律正しく整然としてゐる團體が、どうして汽車中ではかうも違ふかと思ふやうに行儀の悪い、他の乗客の迷惑も顧みないのをよく見受けるのであります。學校生徒や工場青年の修學旅行、見學旅行などでも同じであります。それは乗物の中ばかりではなく宿についてからでもその感があるのであります。

温泉場の朝の浴槽で「お早う」の挨拶をするのも、山道に往き遇ふ見知らぬ旅人同志がお互に天氣の挨拶を交すのも、旅の心をどんなにか和やかにするであります。旅の心を和やかにすることは人世を和やかにすることでありませう。交通道德とか旅行禮法とかいつても格別やかましい、いかめしいものではありません。日常茶飯事を人間らしく仲間同志の暖い心持になつて他人に接し自分を律する以外の何事でもありません。たゞ國策輸送のために混雜緩和に協力するといふばかりでなく、混雜と不便を

忍び合ふと共に、積極的に出来るだけ愉快に旅行し生活するのであります。

それは公德心といふ程のこともないことなので、思ひやりの心たゞ一つといつてもよいのであります。それがあれば、汽車の中で横になり、荷物を置いて二人分の座席を占領したり、寢臺車の洗面所を待つ人の心も知らずに獨占でもしてゐるやうにお化粧に長く使ふこともありませう、外套を着たまゝ肩掛をしたまゝで自分が熱いからと、向ふの人に風が直接あたり、折角暖めた車内の溫度を冷却させるのにも頓着なく窓をあけるといふこともありませう。それは汽車や電車の中ばかりではなく旅館についてからでも同じであります。殊に旅館は共同の安靜の場所であり、同じ屋根の下に一夜でも寢食を共にする大家族であることを思へば、他人に不快を與へないだけの暖い思ひやりの心はお互にもたなければならぬのであります。

七、大東亞指導國民の品格

二〇

日本精神の教養のためには、武士の「嗜み」とか、子供の「躰け」とかいふことが、やかましくいはれたことが回想されなければなりません。それでこそ日本人は禮儀の正しい國民であるとして、東海の君子國といふに値したのであります。それが封建時代にあつて、名を重んずる武士が武士同志、或は百姓町人が武士に對する場合の道徳に基礎が置かれてゐたので、この士農工商の階級が崩れてからの明治時代は、この舊道徳は崩してしまふ一方に新しい社會道徳は打ち建てられず、西洋文物の輸入はしても、西洋風の作法は取り入れられなかつたといふやうな關係から、公德心の養成が叫ばれたにも拘らず、十分な効果があがらずに今日に至つてゐるのであります。

これは人にも限りません。昔は物についても「勿體ない」とか「冥利がつきる」とかいつて、つまらぬ物でも大切に於て粗末にしないのが、よい躰けだつたのでありま

す。殊に主人の物となれば、自分の生命にかけてもこれを守り御家重代の寶物のためには最愛の妻子を犠牲にまでするのは、芝居などでも見る所であります。さういふ氣持があるのに、今の人が公共の物、國家の物を大事にしないのは、日本人はさういふ素質をもたないのではなくて、まだ教へられてゐない、躰けられてゐないためであります。公德についての訓練が與へられてゐないからなのであります。特に物を粗末にしない習慣は、物資不足の現在には復活させなければならぬと思はれます。

封建時代の武士が一步我が家の鬪しきをまたげば敵地に在るものと覺悟しろと教へられてゐたのはともかく、「他人を見たら泥棒と思へ」といふひどい諺もある位だつたのでありますから、知つた同志は知らぬ他人が迷惑するのもかまはずに、通路でも出入口でも馬鹿丁寧なお辭儀をしながら、周圍の人には無作法をして顧みないし、知らぬ土地では何をしても「旅の恥はかきすて」であつたのであります。しかしながら藩を異にしたら敵である百年前とは違ひ、今や日本人は知らぬ人でも赤の他人ではありませ

ん。日本人同志のみならず、日滿も一徳一心、日滿支は一體、大東亞共榮圈全體が知らぬ土地として取扱ふわけにはゆかないのでありますから、井戸の中の蛙が大海を知らずに笑はれる如き排他獨尊的島國根性ではいけないのであります。大東亞の指導者としての品位を保つだけの教養を一般國民がもたなければならぬのであります。

一步國外に足を踏み出せば、そこでは誰でも日本人を代表してゐるのでありますから、その人が行儀が悪ければ、日本人は行儀が悪いといふことになるのであります。また今後は東亞共榮圈の國々から澤山のお客様が來るでありませうが、その人々が日本といふものを知る第一印象は港であり、街路であり、汽車でありますから、そこで接する日本人が禮儀正しいか、無作法であるか、親切であるか、不親切であるかは、直に日本そのものを評價する尺度となるのであります。

大東亞共榮圈の指導者としての大和民族は、大和の字にふさはしい「和を以て貴しとなす」といふ精神をもつてゐなければなりません。「和」こそ共榮圈の各民族をして

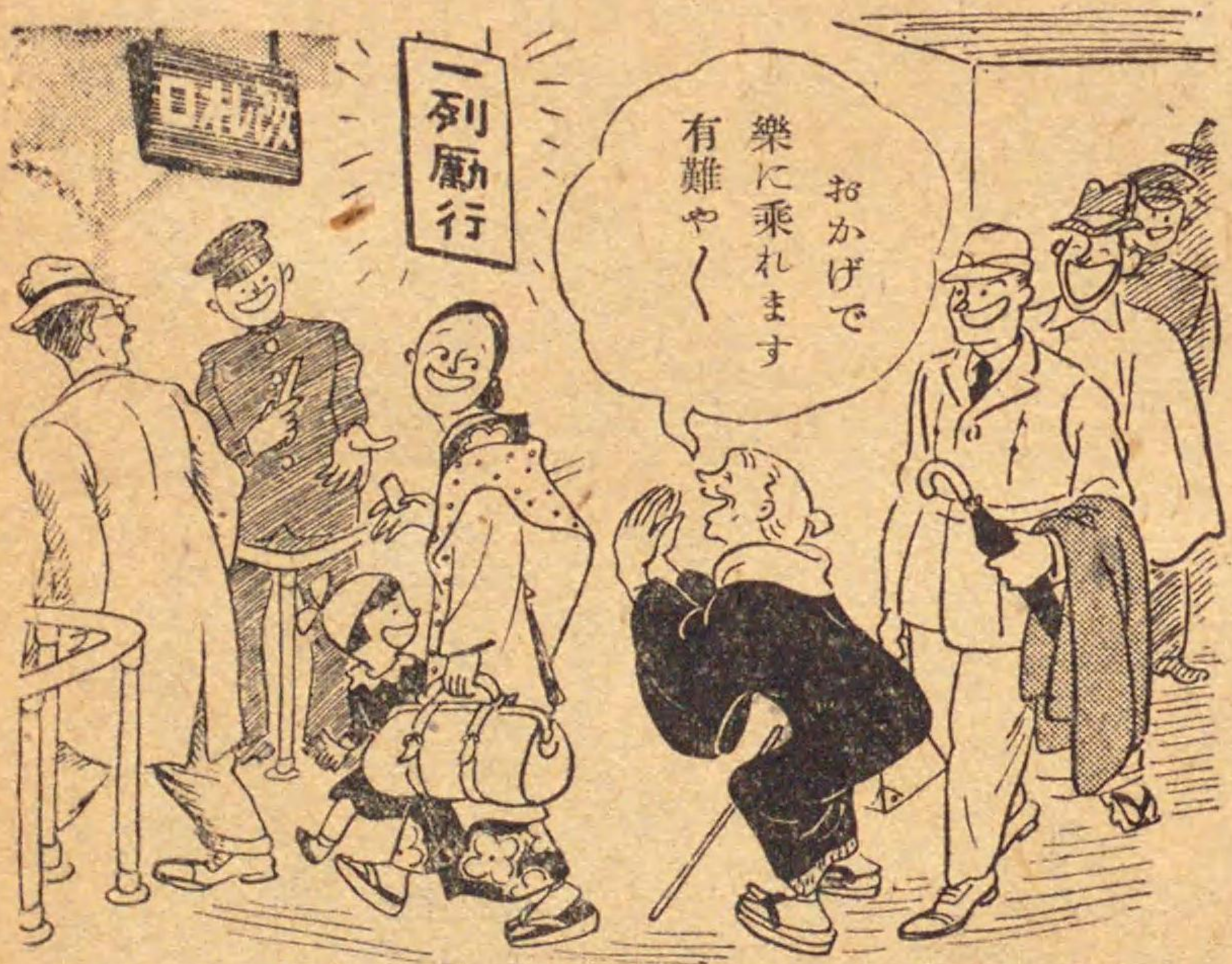
相睦み、各々その所を得しめるモメントであります。日本國民が指導者として、その品位を保ち、兄貴分として尊敬され親愛されるかどうかは、思ひやりの心、和やかな態度といふやうな、日本人らしい「たしなみ」が大切であり、日本人としての「躰け」が肝要であることを忘れてはなりません。この意味に於て交通道德、交通訓練の重要性があると思ひます。

八、旅行禮法

以下各項に述べますのは驛や車内等で守つて頂きたい公德であります。旅客各位がこれらの公德をよく實踐せられ、各人が多少共に苦痛、犠牲、不自由を忍耐することによりまして公衆全體が一樣にこれを軽減することが出来るものであります。

庶幾くは旅客各位がよく「國家」、「公衆」といふことを念頭に置いて行動せられ、眞に大東亞共榮圈の指導者たるにふさはしい大國民の貫祿を十分に發揮せられんことを切望して止まぬものであります。

旅客の公德は素よりこれだけで盡きたわけでは決してありません。例へば乗合自動車や汽船などの乗降に際しての公德があり、また社寺や御陵墓、史蹟、名勝、天然紀念物、國寶などに對しても必要な公德がありますけれども、これらに就きましてはさきに制定された文部省の「國民禮法」がありますのでこゝではは省略して述べないことにいたしました。



一列勵行

公衆の集る所では最も統制ある秩序と規律ある行動とがどんなに必要であるかは、最近の一列勵行運動で既に經驗であります。

混雑する驛の出札、改札口を出るときや汽車、電車の乗り降りにはこれ以上安全で敏捷に行動出来る最善の方法はありません。

我先に押合ひ、犇めき合ふやうなことは大國民の姿でないばかりでなく結

局そのために遅くなることになり。知合同志では最も謙讓の美德を持つ日本人が、一旦公衆の中へはいると別人の如く勇猛な争闘心を起すことがあるとは思へないことであります。また列の途中から割込んで順序を紊したりするのは堅く慎まねばなりません。

かうした運動は何時しか習慣となつてなんでもなく行へるものであります。そしてそれがやがて美しい國民禮法となるのであります。



出札口

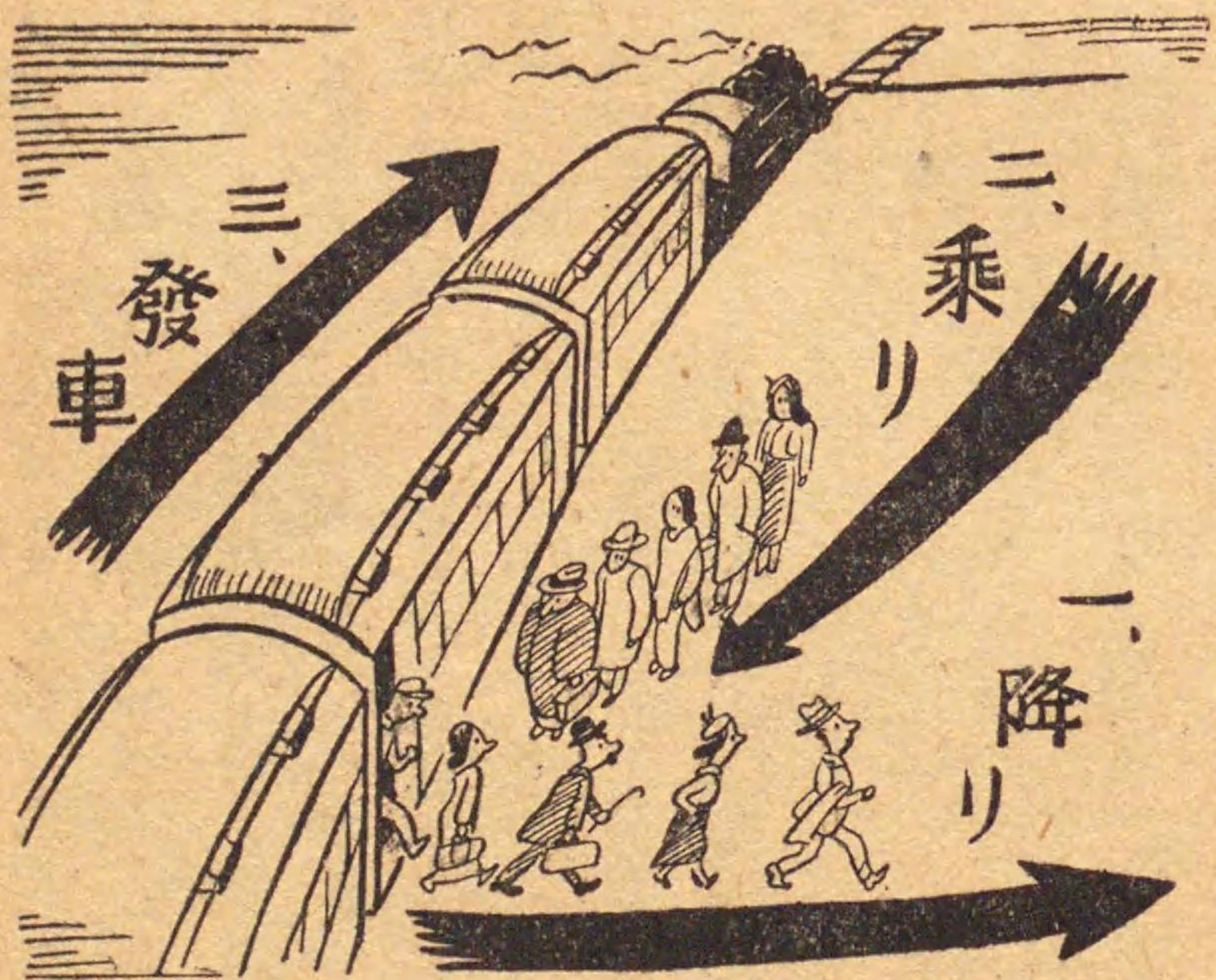
汽車の切符を買ふ時には順序正しく一列勵行は勿論ですが、何よりも大切なことは釣錢のいらぬやう用意することでありませう。

もし假りに百圓紙幣を出されたとしたらどうなるでせう。どんなに馴れた出札掛でも精算するに三十秒はかゝります。十分間で二十人しか切符が賣れません。千人の客があつたら同時に五十箇所の出札の窓口を開かなければ十

分間には間に合はないこととなります。この釣銭のために時間を費して、その結果切符を買ひ損ねて所要の列車に乗れない人が出来ることもありませう。又計算を間違へれば旅客も鐵道も大變な手數と迷惑を蒙らねばならぬこととなります。

運賃は時間表にも亦驛に掲げてある運賃表でもわかるやうになつて居りますから豫め運賃額を持つてゐる位にすることが自分自身をいらだたせず早く済み、他人にも迷惑をかけることとなります。

ある驛の出札口で調べると釣銭の計算時間は五圓以上の運賃に、十圓札を出されると二分かゝり、百圓札で二十圓以下の運賃でありますと三分十秒かゝります。旅客十人のうち釣銭を要するものが十人乃至八人といふ記録が表はれてゐます。



列車の乗り降り

汽車、電車を待つ間はホームの白線内か安全地帯で靜かに待つことは危きに近づかぬ君子の道であります。

一降り、二乗リ、三發車は混亂を避ける最善の方法で順序正しく敏捷な行動が第一であります。もみ合つてゐては汽車が遅れるばかりでなくそのためにひいては事故の原因になるやうなことがあります。

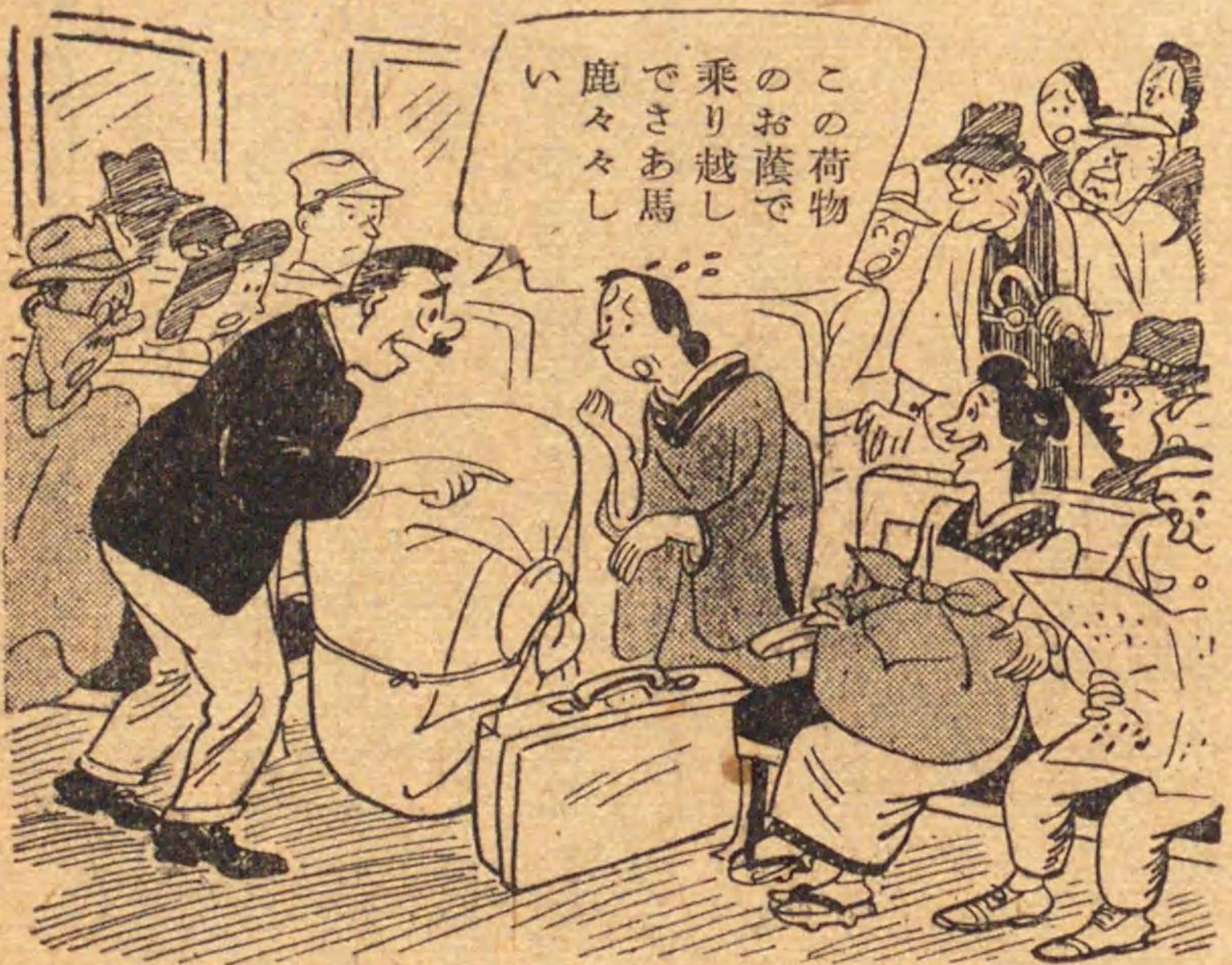
座席などは長途の旅にはお互に交替

すればよいでせう。まあまあと譲り合ふ美しい人情を誰にでも示したなら、一人の新しい友をつくりなごやかな旅が出来るといふものでせう。

出入口に立つことは降りる時に早いといふ考へ方であるとすればそれは間違ひであることが分ります。停車の度にもみ合ひ押合ふ苦痛の時間が長いだけで結果は行動が遅くなるばかりです。都會地の混雑時には特に自制と規律行動が肝要であります。無理に早く降りようとする考は全く逆効果となつて仕舞ふのであります。

飛び降り飛び乗りは危険ですから絶対にすべきではありませんが、見送りに行つた方が車内に入り込んでゐて、汽車が動き出してから慌て、飛び降りることがありますが、見送りの方は車内に入るとは許されないうことですからくれぐれも注意しなければなりません。

また汽車が動き出してから歩きながら別れの手を握つたり、窓際に手をかけて話したりするのも危険ですから絶対にやらないことに致しませう。



荷物は少く

旅行に荷物の多い程不便なことはありません。これを荷厄介といひます。ことに今日のやうに混雑する時は尙更であります。

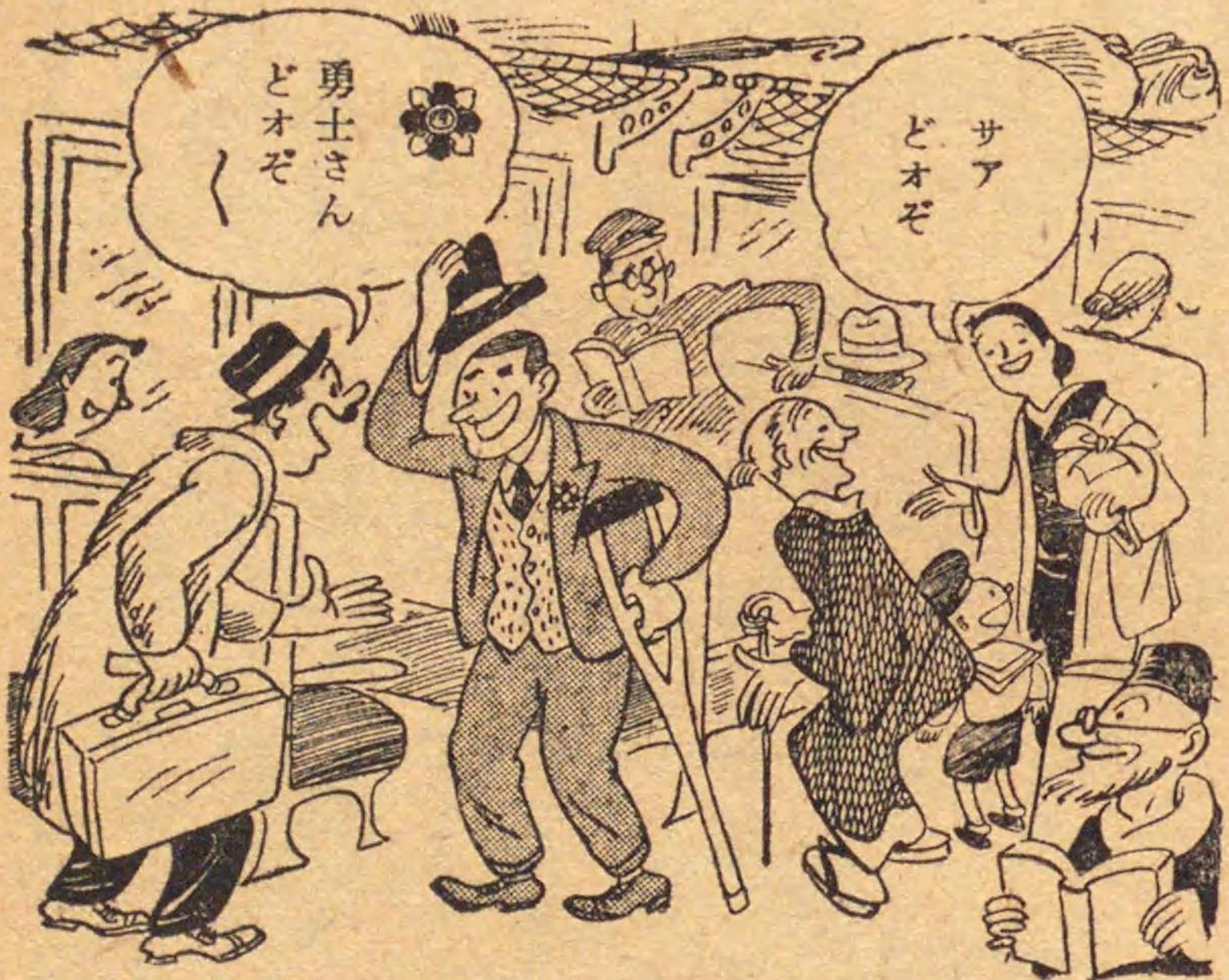
ところが時々山程の荷物を擁して、人が旅行するのか、荷物が旅をするのか分らぬ程に荷物を持込んでゐる人を見かけることがあります。

今後は混雑時には荷物の持込箇數を制限されることもあります。車中で必

要な荷物はそれ程ない筈であります。

荷物で座席をふさいだり通路が歩けなくなつたりして、非常に迷惑をかけることが多い。そればかりではなく人手を借りねば降りが出来ないことにもなり、敏捷な行動が出来ません。荷物は手廻品だけに止めることに致しませう。そして手廻品以外の荷物はチツキで送るやうにして頂きたいものであります。

車内での手廻品は座席の上に置かずに總べて網棚の上にあげませう。網棚が一杯で載せられない時は、座席の下に入れるやうにしませう。時々トランクなどを通路に置かれる方がありますが、通る人の邪魔になります。



着 席

傷痍軍人や老幼婦女子には席を譲りませう。

お國のために傷ついた方々には感謝の微意を捧げて、眞先に席を譲りませう。

老幼婦女子をいたはるのはいふまでもなく日本古來の良俗であります。席ばかりではなく棚の荷物の上げ下ろしお茶や辨當の世話をしてゐるのは見てゐても快よく美しい情景です。助けら

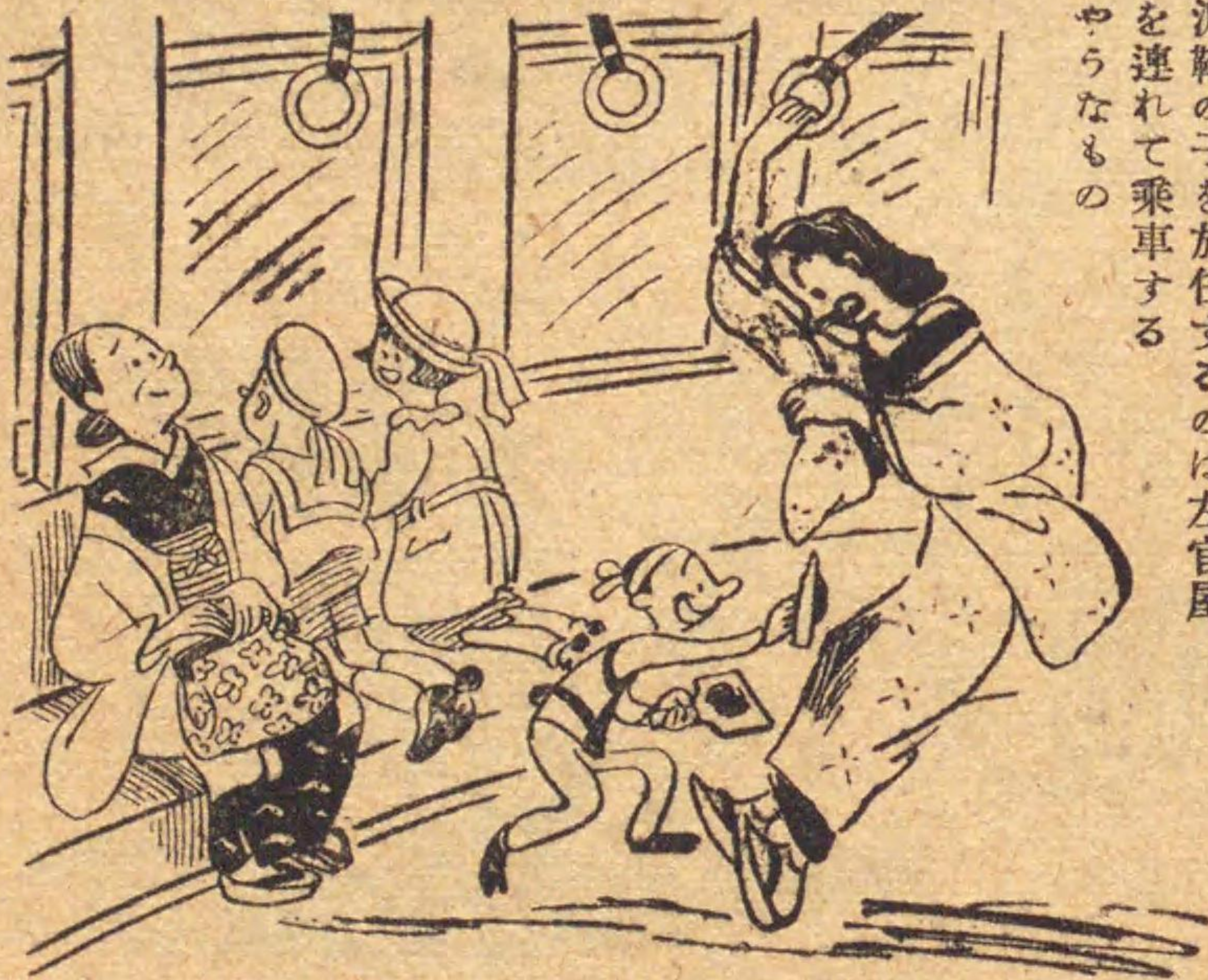
れいたはられた親切には誰しもその好意には十分謝意を表すことであります。

窓から荷物や帽子を入れて席を占據しようとする人や混雑してゐるのに知らぬふりして荷物で二人分の席を占めたり狸寝入などするのは慎むべきことであります。

子供と親とが別々に離れた座席に着いたり、友人同志が別々になるときには出来るだけ譲り合ひかはり合つてやることも亦大切なことであります。

通勤や通學の方々にも車内禮法に案外無關心なのを見かけます。殊に通學生など席があつても通路に立ち塞がつたり、洗面所に入り込んだり、デツキに立つて汽車の轟音に紛らして騒いだり、二等車の中をばたばたと通りぬけて見たり大勢を頼んで茶目氣分や好奇心を發揮したりすることは注意しなければなりません。

泥靴の子を放任するのは左官屋
を連れて乗車する
やうなもの



子供のお行儀に心して

車内でよく子供が泥靴のまま座席に膝立ちして窓によつて眺めてゐるのを見かけますが、隣席の人は随分警戒もし、どれほど迷惑することであらうか。ことに盛装してゐる婦人などは尙更であります。

こゝはお互に注意せねばならぬ公共の場所であるのに、總じて車内での子供のお行儀には十分に注意せぬと他の人々に迷惑をかける事が多い様です。

車内を綺麗に

車内でたべた辨當の殻や果物の皮、新聞紙や煙草の吸がら、又は痰唾の始末はどうでせう。よくも散らしたものだと思ひし不快を感じぬ人はないでせうか。

由來日本人は清淨潔白を國民性の一美德に數へてゐる程で、家庭では一日何回かの掃除を行つてゐる人ばかりであります。車内は私達の共同の住居であり、座席は座敷、通路は廊下なので



あります。めいめいが我が家と思ひ心して始末をすれば綺麗に保たれる筈なのであります。

勿論ボーイは掃除致しますが、餘りに負擔が多くなりますと、それだけ人手を要することとなり、全列車では相當の數になります。戦時下にこれらの人達を煩さず人手の足りない他の部門で活躍して貰ふことが出来たとすればこれこそお互の大きな奉公であります。

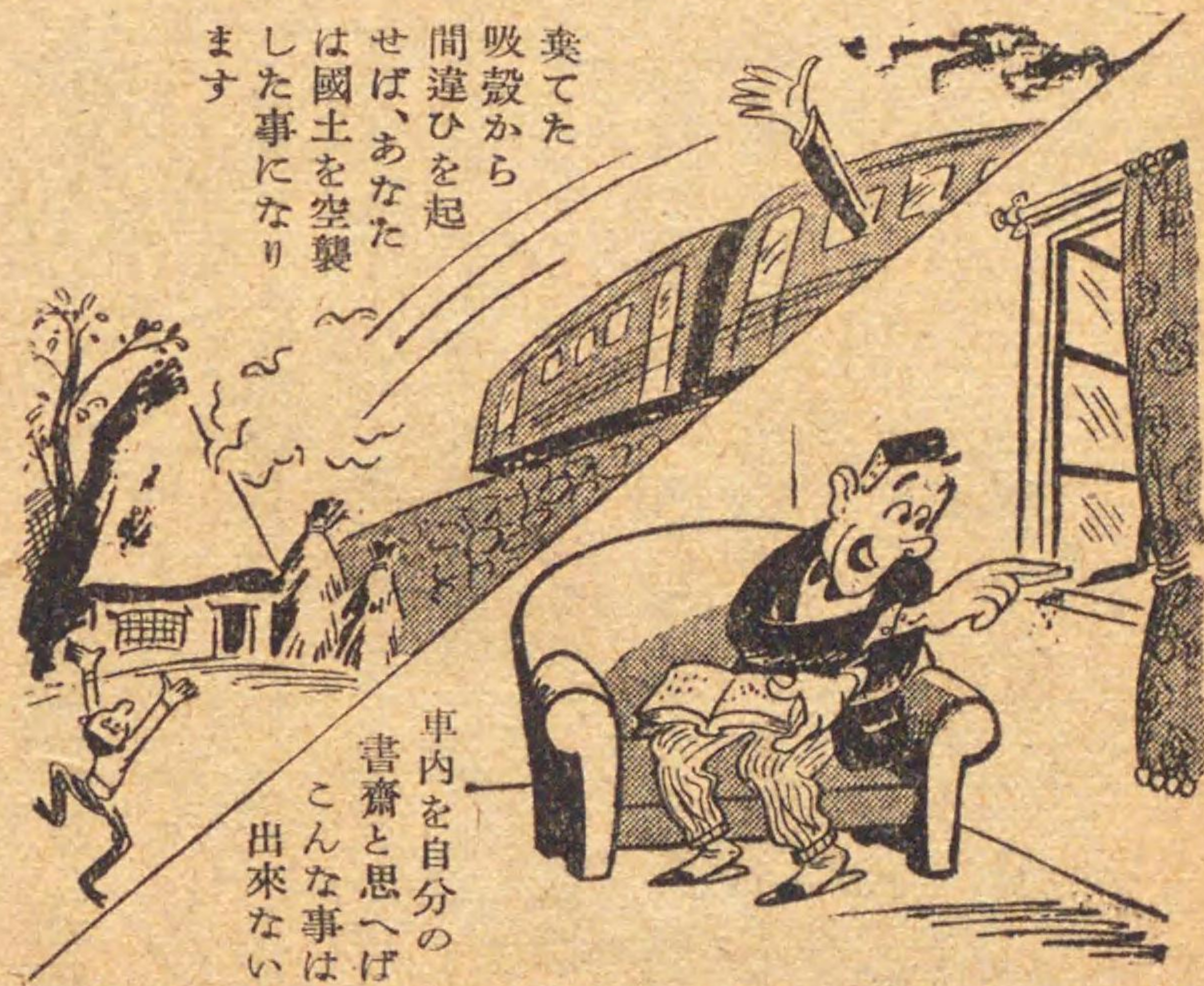
通學の學生諸氏、産業報國團の方々の通勤時には車内の清掃によく協力され模範を示されてゐるのは感銘深いことであります。

喫煙される方々は

喫煙室がない以上車内での喫煙は已むを得ませんが、煙草を吸ふ方は、世の中には煙草の嫌ひな方のあることを忘れないでゐて欲しいものであります。

殊に窓を開けてゐる時は風のために煙草の煙が遠慮なく後方の客に突き當つて迷惑を致します。

煙草の吸ひさしを腰掛のへりですり消したり、窓わくの中に入れたり、定



められた所の唾壺に棄てずにところかまはず床の上などへ棄てたりする人があるのはまことに困ります。

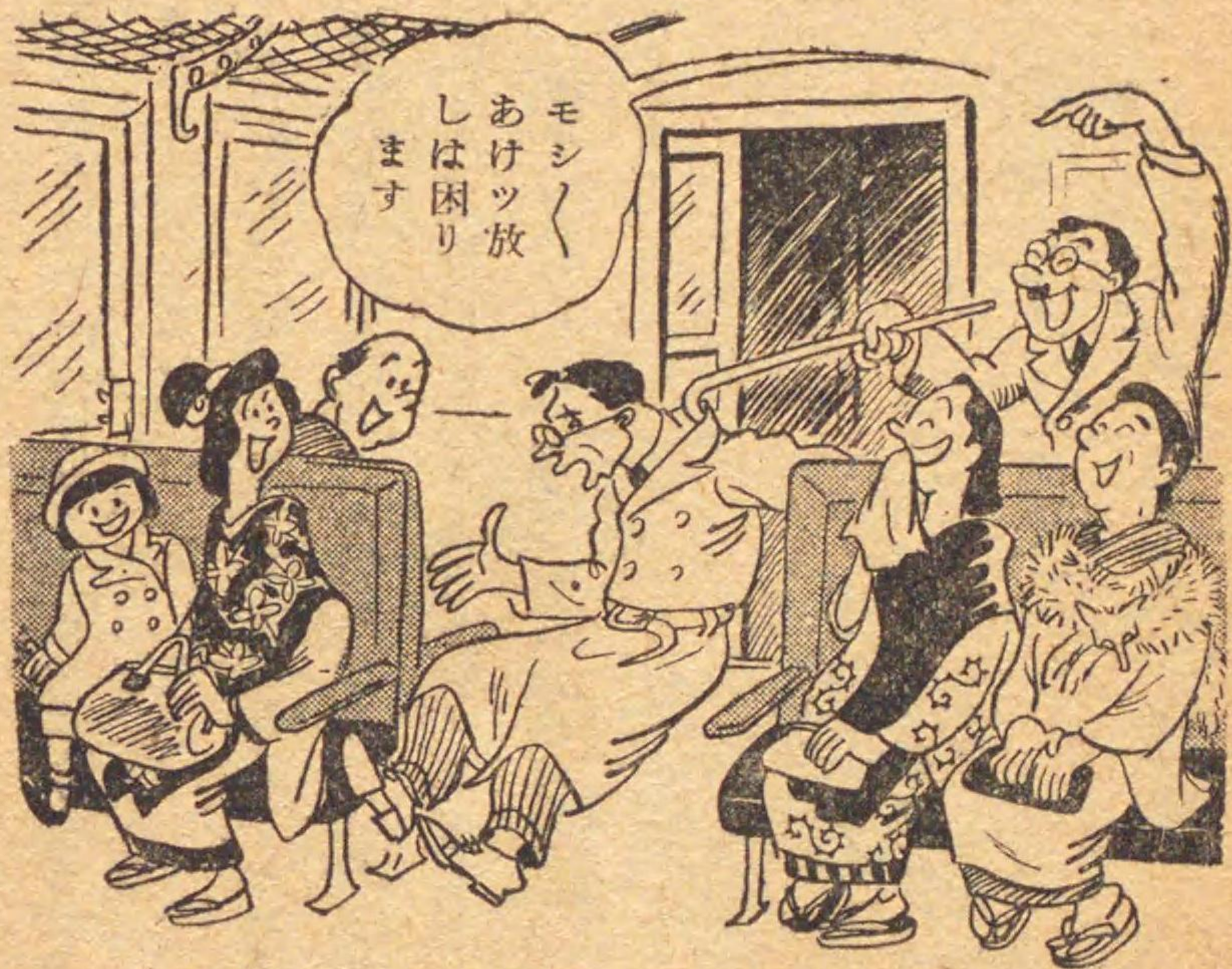
窓から外へ棄てたりする亂暴な人すらあるのはどうしたことせう。これは後ろの席にゐる人に火の子の洗禮を受けさせたり着衣を焦すこともあるばかりでなく、それがもとで大火事を起さぬとも限りません。

煙草の吸ひさしを棄てることは車中に限らず野に山に街頭に大いに注意が必要であります。

窓や扉の開閉には

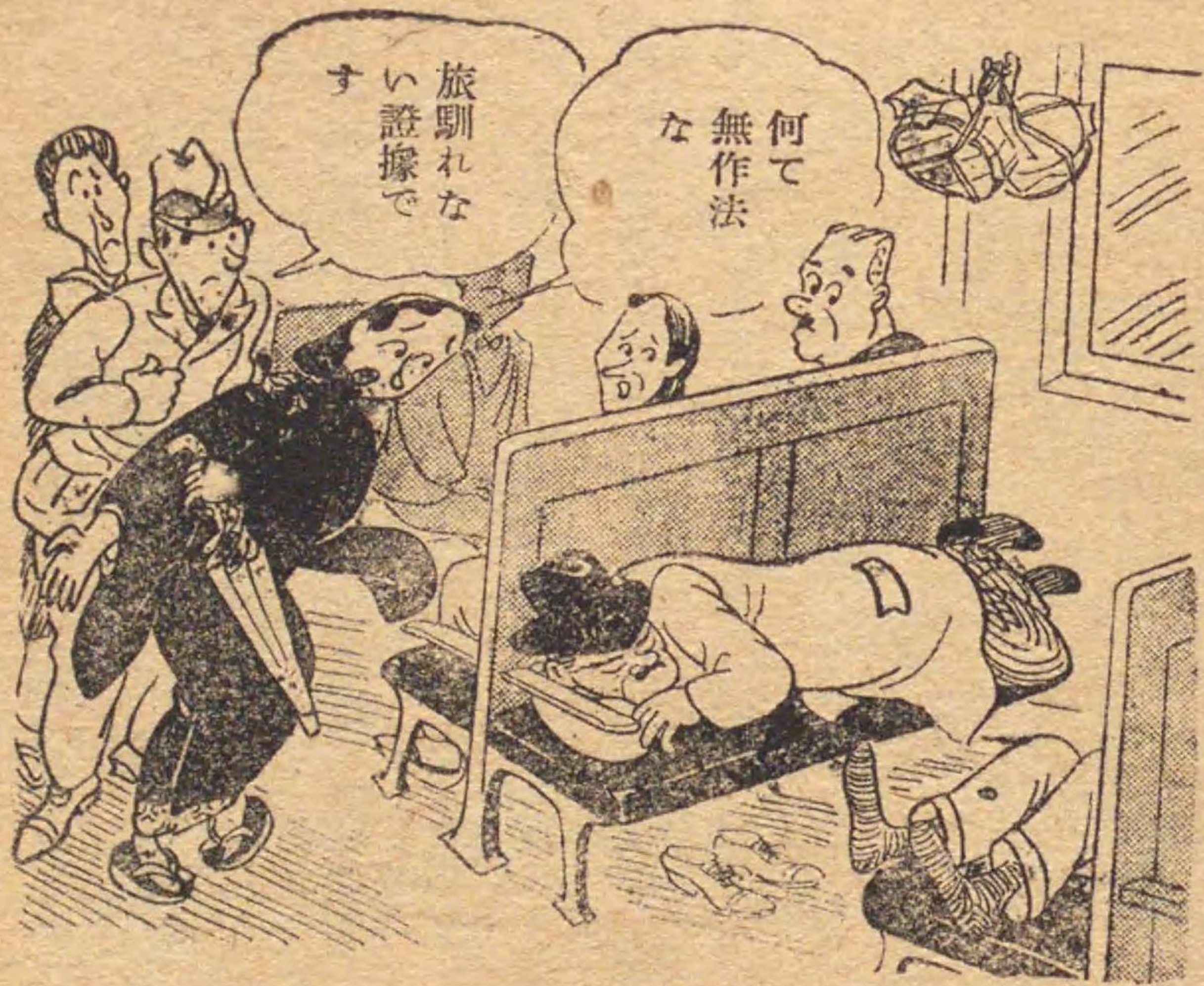
窓の開閉には十分注意が必要であります。寒いのに開け過ぎたり、暑過ぎるのに閉め切つてゐたりせずにお互に都合よく人に迷惑のかゝらぬやうにしたいものであります。子供が開けたがるからといって近所の人を困らせぬやうに。

通路のドアの開け放しは随分流行するやうであります。夏なら風通しのよいのは望ましいが、スチームの通つて



ゐる冬の車室を前後かまはず開け放して行く人には誰しも腹が立つものであります。ドアを閉めるのを忘れたために折角暖められた室内の温度の調節が破られたり、風雨の日にはしぶきが吹き込んだりして人々が迷惑します。

試みにドアの際に席をとつて見て下さい。何回ドアを閉めねばならぬか、實際ドアを閉めるために雇はれたのではないかと思ふ程に忙しいことがあります。心して静かに閉めて行く人が有難いとさへ感ずるやうでは開け放しの好きな國民だと思はれるのも無理ではありません。



禮儀を重んじ身だ
しなみをつましく

暑い時には兎角身だしなみが亂れ勝ちのやうであります、人前で無遠慮に肌を露すことは慎みませう。

殊に婦人は身なりが派手なだけに人眼をひきます。若い婦人が人前を憚らず車内で着替をする場合は周囲の人々に多少の氣兼ねあつて欲しいと思ひます。

夜汽車で居眠をしてゐると自分の身



車内では防諜に
注意して和やかに

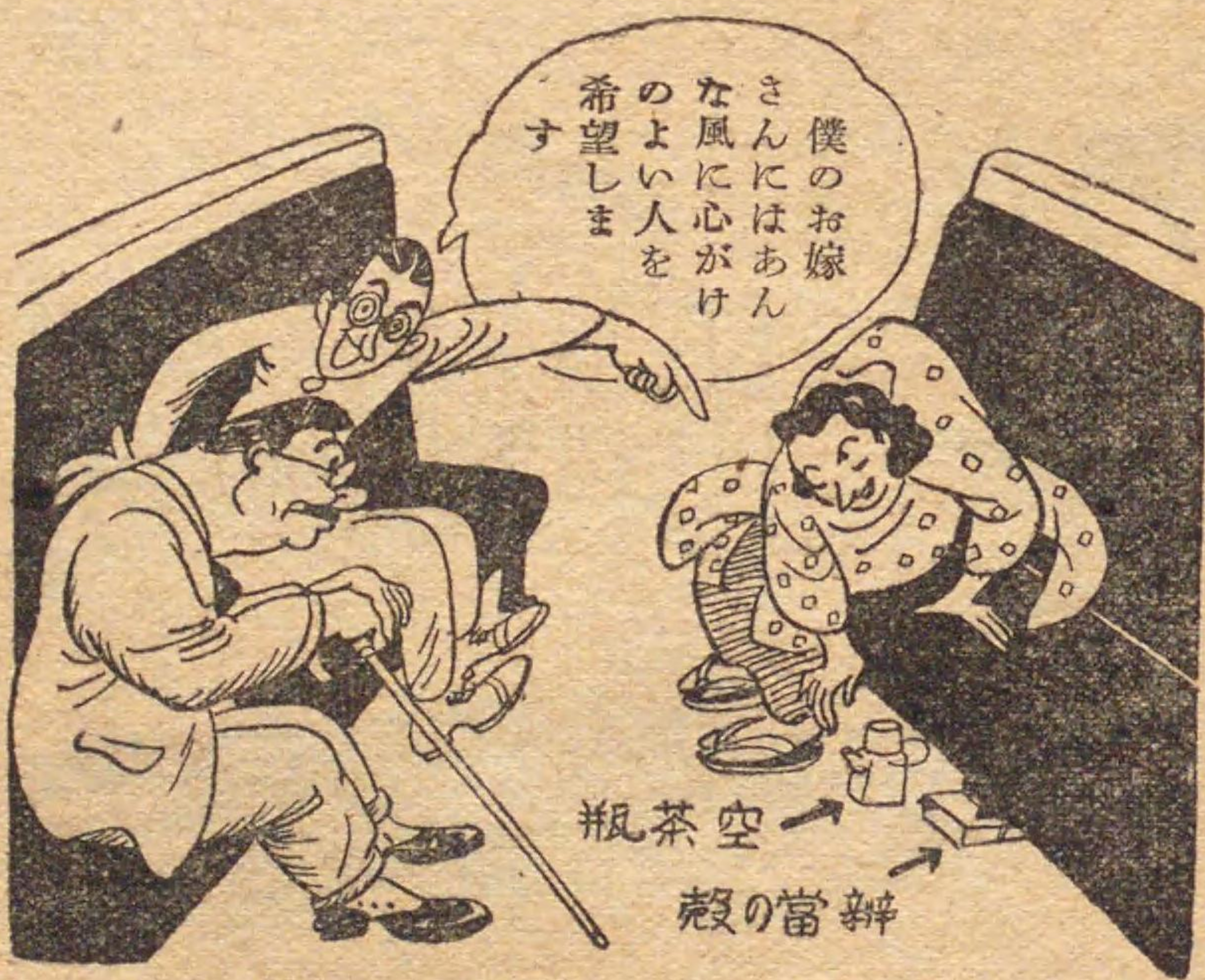
防諜關係の言動を特に注意することは銃後國民の嚴守すべき鐵則であります。

團體などで大勢の時はことに群衆心理で喧噪を敢てしたり、聞くに堪へぬ雑談が交はされたりすることは周囲の人が迷惑を致します。また夜行列車などで夜中に他人の睡眠を妨げることは慎まねばなりません。

だしなみに思ひがつかず笑的となることが往々あります。居眠をして隣席の人に凭れかかり、對手が迷惑がつてゐても一向氣づかない方があります。これは多くは男子に見られるところで、隣席の婦人を惱ますこと甚しいことがあります。

また新聞を大きく擴げて肱を張り隣席の人の視野を塞ぐのも迷惑となります。

一人や二人で旅行するときは何でもないが、大勢で旅行される場合、車内で随分目に餘る振舞を平氣でやり、婦人や子供のゐるのも構はず、下らない話をして心ある人を擧げさせることが往々見受けられます。兎角大勢となると行儀が亂れ勝ちとなりますから各自十分注意しなければなりません。



窓から空瓶や辨當殼

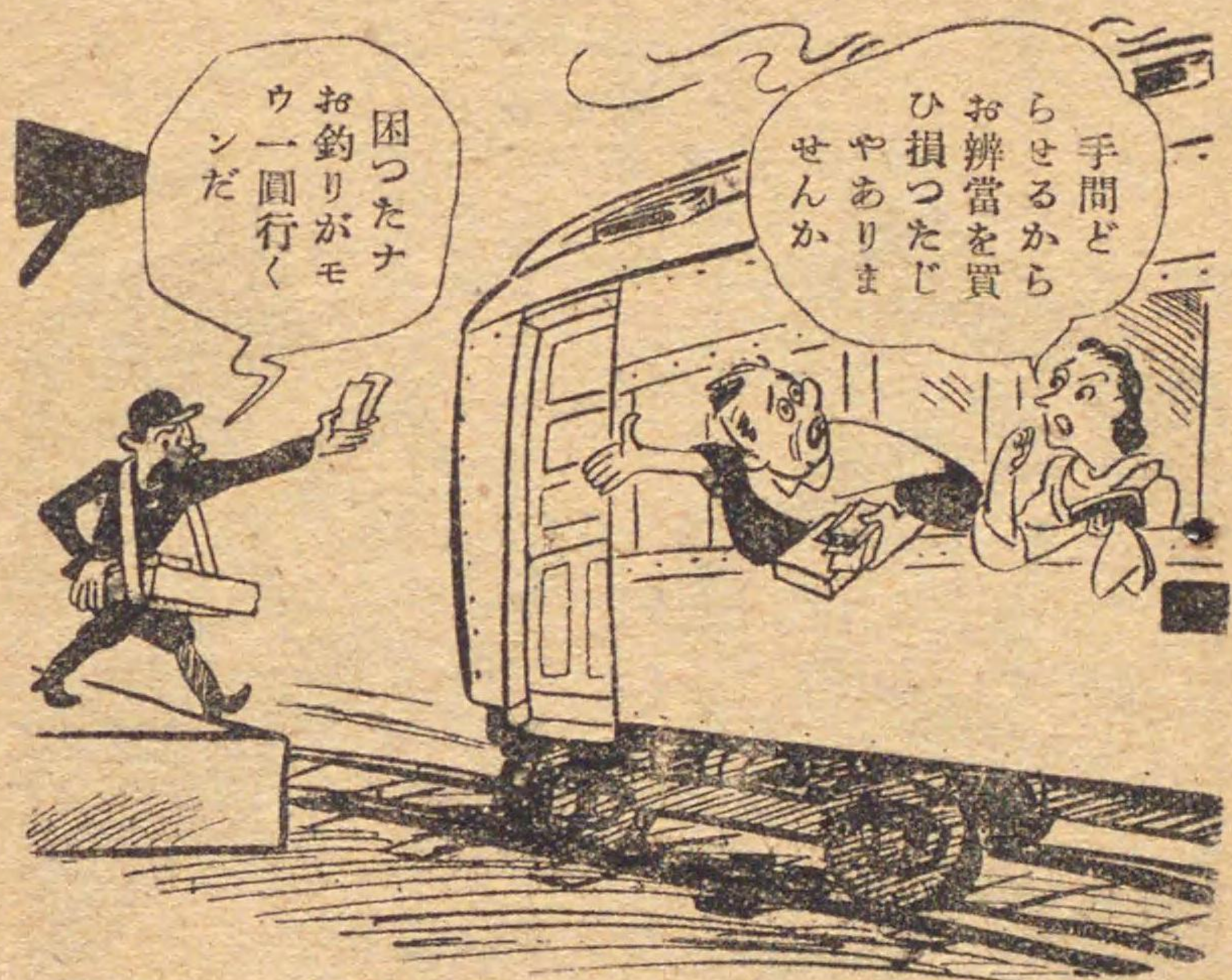
などを棄てぬやう

今時窓から空瓶や辨當殼などを投げ棄てるやうな人も極めて少いと思はれますが、これは絶対に止めて欲しいこととであります。皆様のために線路を安全に保つ線路工手が働いてゐるのでありますから怪我をすることが往々あります。

買物は窓口から

乗車中の買物は出来る限り窓口からすることに致しませう。近頃辨當や茶、地方の名産、新聞や煙草等を買ふに混雑のため不便もありませうが、賣子の活動によつて用を辨ずることゝなれば一々賣子を取巻いて混雑を來し、そのために多少でも列車の發車を遅らせるやうな結果を來すことはなくなりませう。

鐵道側でも旅客が窓口で樂に買物が



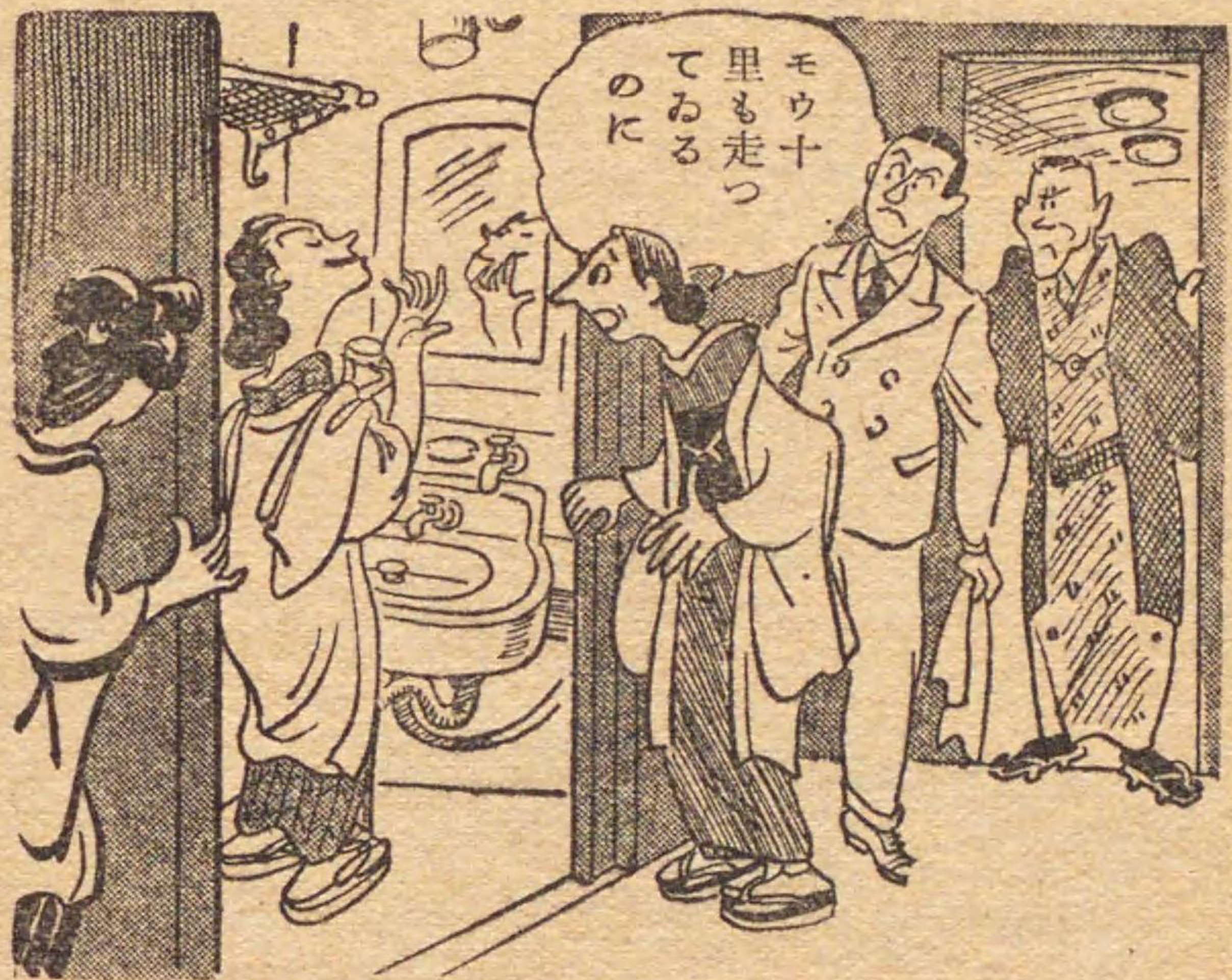
出来るやうにと辨當販賣の各驛に對してはホームでの賣子の配置にまで注意してこの問題の解決に努めてゐるやうな現状でありますから、買物は必ず窓口から。そしてその際には釣錢で賣子を困らせることのないやうに、豫め小錢を用意して置くことが望ましいことでもあります。

交通道德標語

守る公德、たのしい旅路
 きれいな車内、楽しい旅行
 狭い車内もゆづつて広く
 ゆかしい公德、たのしい食堂
 御食事は早くきれいに行儀よく

洗面所などでは

洗面は手早く、人を待たせぬやうに、こゝでは一列を作つては困ります。一室に八十人以上居りますから、一人一分としても相當な時間がかかります。晴々しい朝を迎へて洗面の出来ぬのは随分気分が悪いことでせう。できるだけ早く用を済して交替しなければなりません、殊に婦人方には洗面後眉墨をひいたり、口紅を塗つたり、入口には楊子をくはへた客が待つてゐるのに、自



分一人の化粧室のやうにゆつくりやつてゐるのは困ります。男子の髭剃も同様注意すべきでせう。

また便所はノックしてから入ること、使用後はよく水を流して置くこと、停車中は使はぬことはいふ迄ありません。

洗面所はいはゆる洗面所であるのに荷物を擔ぎ込んで、その上に腰をかけたたり、直ぐ降りるからといつて通學生や通勤者が立込んでゐるのは、使用者にとつて大變迷惑です。断然止めることに致しませう。

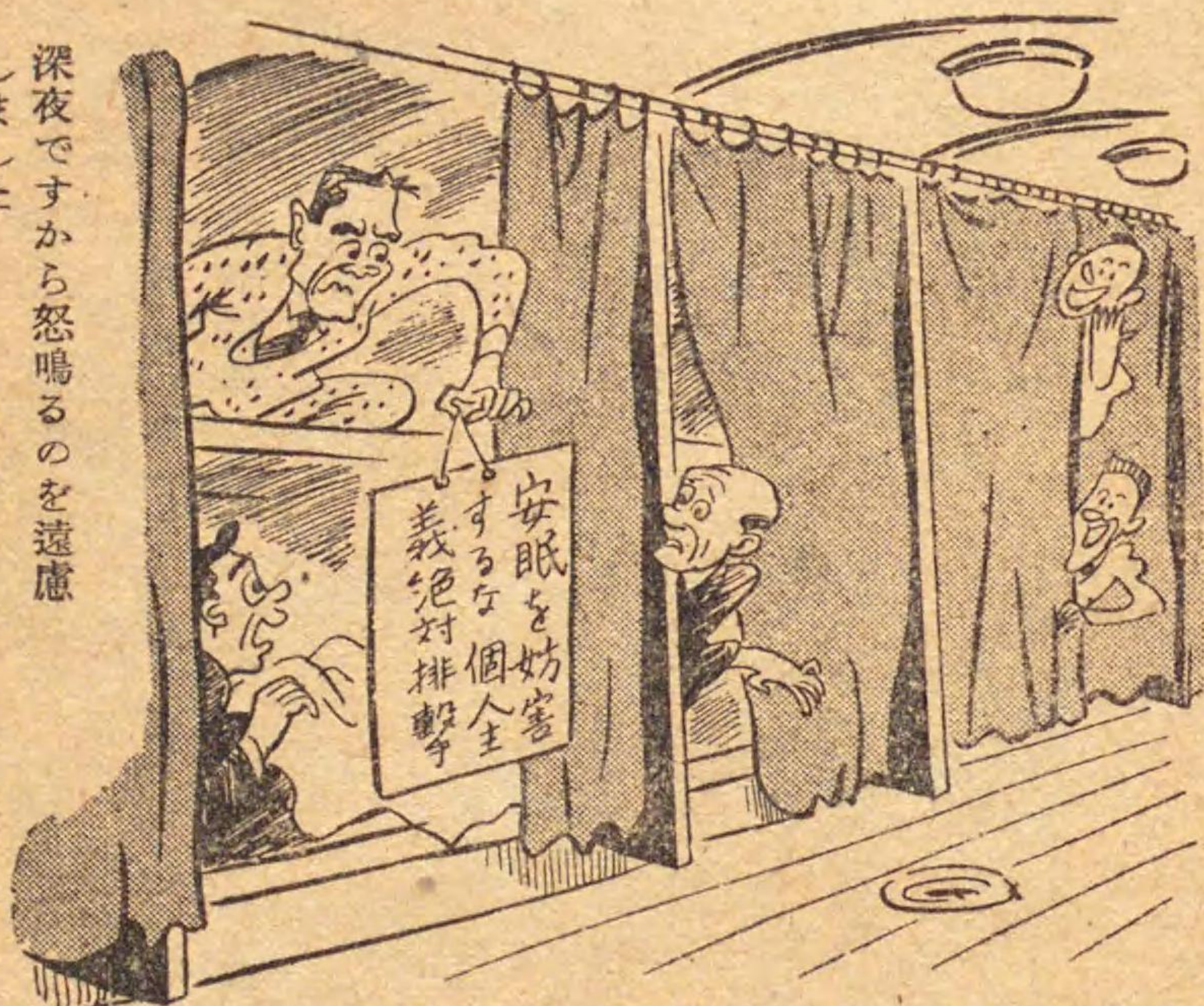


食堂車では

公衆の食堂で、ホテルの食堂と變りませんから一層禮儀作法が大切であります。

帽子を着け又は外套を着たまゝの食事、上衣を脱いだり、スリツパの儘などではその人の品位にかゝります。

戦時下に酒を過ごして狂ふやうな人はないでせうが、長居をして大勢を待たせたり、定食時間に喫煙をしたり、無やみにボーイに長話しをしたりすることは注意すべきであります。



寢臺車では

こゝは明日の大事な活動に備へて、十分安眠するための安息所であります。

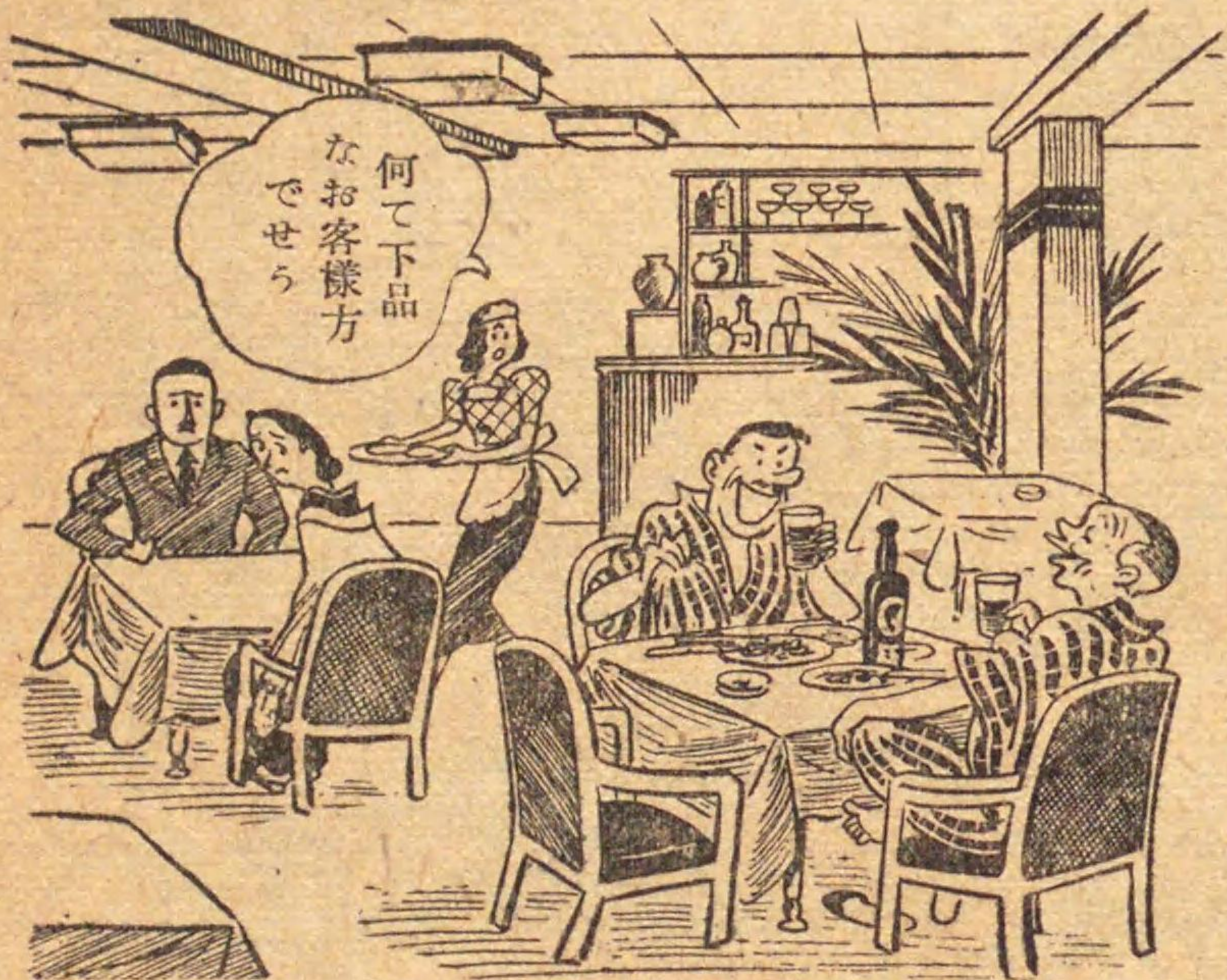
鐵道では深夜は驛名喚呼を止めて、まどかな眠りを驚かさぬやうにしているのであります。大聲での世間話に花を咲かせてはなりません。母は我が子の眠を妨げぬためにどんなに心をくばるかは知れ過ぎてゐます。

出入のドアの開閉にさへ心して静かにして欲しいところであります。

自分の寢臺番號をよく記憶して置き、夜中便所に起きたりして、他人の寢臺を驚かすやうな失策のないやうに心がけることが大切であります。
 寢卷の儘寢臺車の室外を出歩いたり、着換へにあられもない姿をせぬやうに心すべ
 きであります。

交通道徳標語

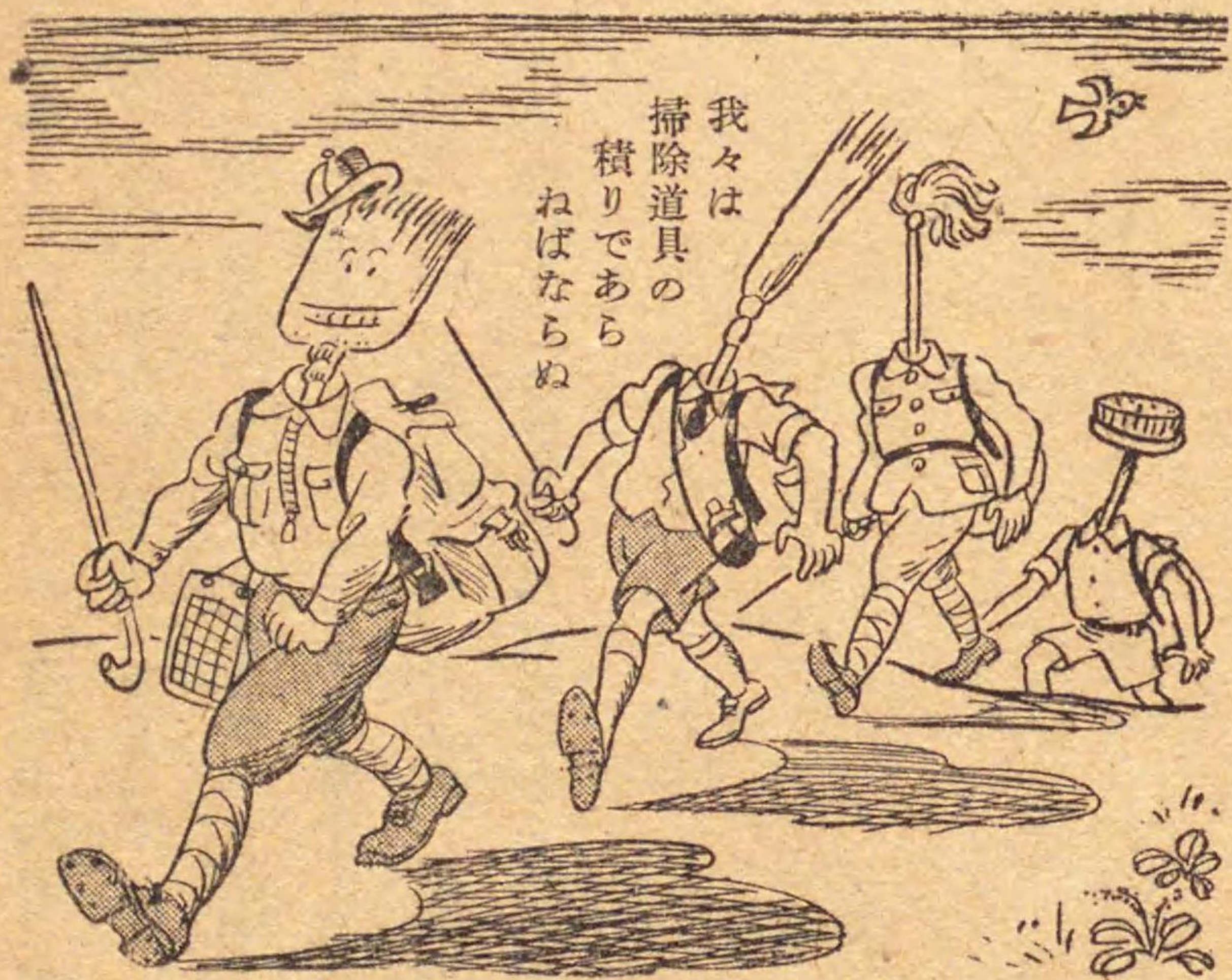
旅に公徳
 風光日本、公徳日本
 輝く公徳、明るい車窓
 たのしい旅にゆかしい心
 守る公徳、愉快な食堂



ホテル、旅館では

ホテルや旅館ではつとめて禮儀を
 尊び、かりそめにも他の客に不快を
 感ぜしめぬやう總べての動作を慎ま
 ねばならぬことはいふまでもありませ
 ん。

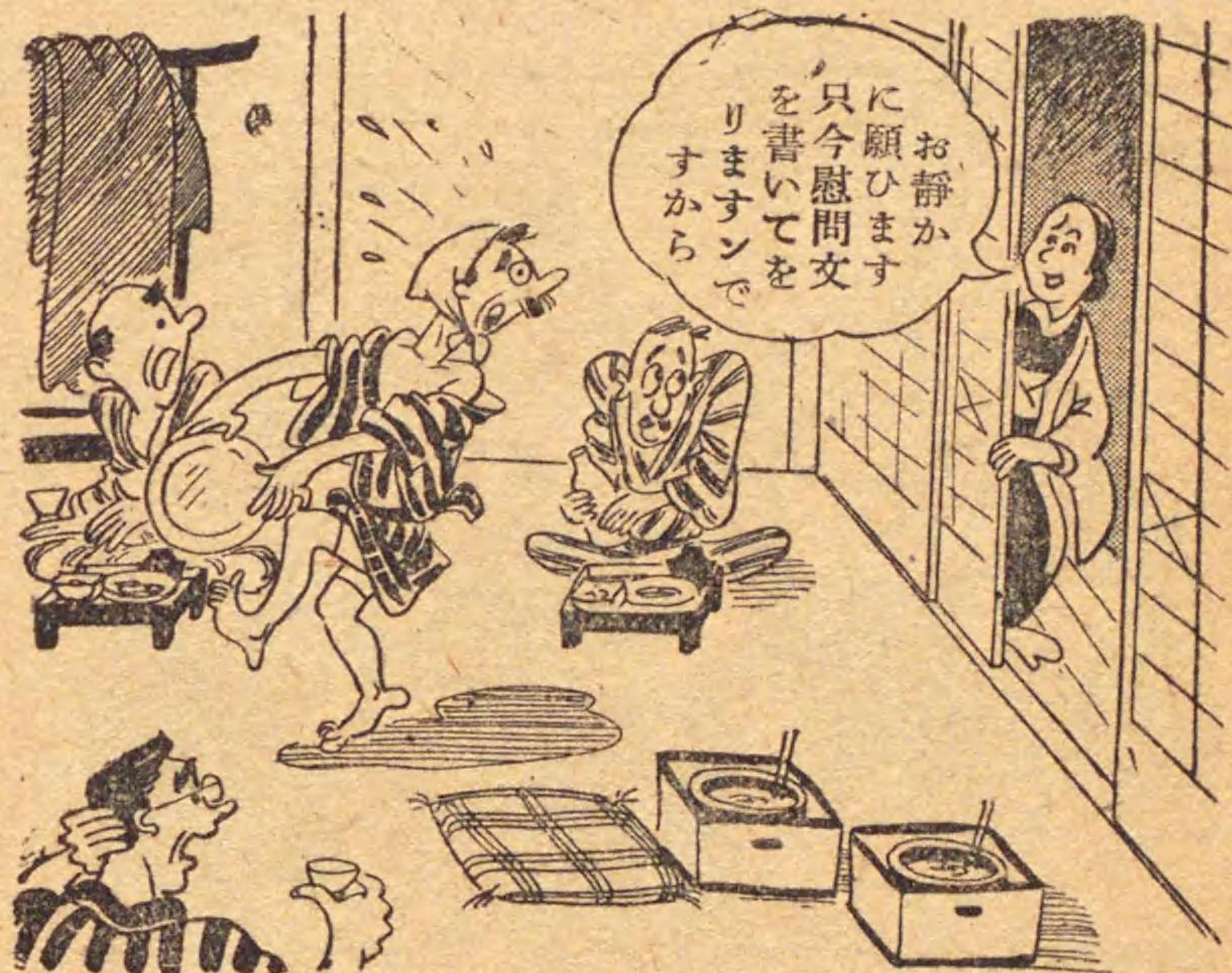
ホテルは設備その他の關係もあり、
 一般にホテルの雰圍氣が理解されてお
 るやうですが、稀には食堂へ寢卷や浴
 衣で出たり、食事の作法を知らぬた
 めに思はぬ失策をしたりすることは紳



自然美に憧れてハイキングにスキーに又は登山にと野外に錬成を試みる人々は概して自然の美しさによつて感化醸成された美しい情操の持主であり、自然を愛し、一本一草を傷け、みだりに不潔にすることはない筈であります。

しかし時として辨當を使つた後の不始末があつたり、可憐な高山植物を荒すやうなことがあつてはなりません。

風景愛護



士、淑女の品位を失ふことになります。旅館で夜遅くまで騒いで安眠を妨げたり、無やみに女中や番頭を使つたり部屋の器物を損じるなどは最も注意すべきことで、宿料を拂ふからといつて大名になつた譯ではありません。こゝでは我が儘勝手をいふ人程相手にされなくなります。十分な感謝をもつて宿るべきでせう。

自然環境が美しい處だけに一層その醜悪さが強く目に映することであります。風景の美化は即ち國民の心の美化であります。よくお互に注意致しませう。

また山小屋での公德にも遺憾なことがあります。他に人がゐないからとて無人の小屋を荒し、床を焚ゆかいてしまつたり、器物や食糧が荒されてゐることがあるといひます。

若し小屋が無かつたなら、その人の生命が危かつたかも知れぬのであります。おたすけ小屋に十分な感謝を持たねばならぬ筈であります。

戦時下の鐵道

昭和十七年三月廿日印刷
昭和十七年三月廿五日發行

鐵道省

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地 杉山退助

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地 大日本印刷株式會社

424
87

